

一般社団法人 日本医療薬学会
平成 23 年度第 1 回定例理事会 議事録

一. 開催日時：平成 23 年 3 月 8 日（火） 14 時 00 分～17 時 20 分

二. 開催場所：日本病院薬剤師会会議室

三. 出席者：

会 頭： 安原 真人

副会頭： 鈴木 洋史、山田 安彦

理 事： 井関 健、大石 了三、大澤 孝、大森 栄、奥田 真弘、草井 章、
谷川原 祐介、林 昌洋、樋口 駿、堀内 龍也、宮崎 長一郎、
山本 康次郎

監 事： 内野 克喜、五味田 裕

年会長： 佐藤 博（第 22 回年会長）、中村 裕義（第 20 回年会長代理）

陪席者：

事務局： 松本とみ恵、星 隆弘

欠席者：

副会頭： 望月 眞弓

理 事： 乾 賢一、北田 光一、平井 みどり、山本 信夫

四. 議長：安原 真人

五. 会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 15 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨報告された。

六. 議事の経過の要領及びその結果

1. 平成 22 年度第 6 回定例理事会の議事録の確認

議長より、第 6 回定例理事会（以下、前回理事会という）議事録を基に、議事内容の確認が行われ、当議事録への追加又は訂正がある場合には、本理事会終了時までに申し出いただく旨依頼された。内野監事より、理事会議事録には欠席情報を記載するよう指摘があり、本日の理事会議事録から指摘どおりに対応することになった。

2. 協議事項

(1) 平成 22 年度事業報告

奥田理事より、資料に基づき、平成 22 年度事業報告に係る説明があった。協議した結果、本報告事項が全会一致で承認され、本年 3 月 28 日に開催される第 3 回定時社員総会の議案及び資料とすることとなった。

(2) 平成 22 年度決算報告

大石理事より、資料に基づき、平成 22 年度決算報告に係る説明があった。協議した結

果、本報告事項が全会一致で承認され、本年3月28日に開催される第3回定時社員総会の議案及び資料とすることとなった。

(3) 平成22年度監査報告

内野監事より、資料に基づき、平成22年度監査報告に係る説明があった。本学会の業務、財産及び理事の執務執行について監査した結果、全ての執行内容は適正であったことが報告された。本年3月28日に開催される第3回定時社員総会の議案及び資料とすることとなった。

(4) 平成23・24年度推薦代議員候補者の選出

平成23・24年度代議員選挙結果について奥田選挙管理委員長より報告があった。次いで、議長より、資料に基づき、平成23・24年度推薦代議員の選出に係る説明があった。始めに、本年2月14日から16日までの間にEメールにより審議した代議員推薦委員会の構成に係る審議結果として、提案した委員会構成が承認された旨報告があった。続いて、議長（同委員会委員長兼務）より提出された推薦代議員候補（以下、候補者という）の推薦案を基に協議された。その結果、その他区分に属する一部の候補者の推薦順位を修正した上で推薦代議員候補案を承認し、候補者本人への説明及び内諾取得の手続きを進めることが承認された。併せて、その他区分の候補者が少なくなった場合の対応として、補充する候補者の決定については、議長（同委員会委員長兼務）に一任とすることが承認された。

なお、今後、行政機関の所属者にも本学会の活動に協力してもらえるように、入会勧誘を進める方針が全会一致で承認された。

(5) 平成24・25年度役員選挙

奥田理事より、資料に基づき、選挙制度委員会（平成23年2月24日開催）の報告と共に、同委員会で取りまとめた平成24・25年度役員候補者選出規程（改正案）に係る説明があった。当該改正案について協議した結果、監事の立候補条件及び同点得票数時の判定条件への上乗せが望まれる意見が出され、今後検討することとなった。また、議長より、役員の再任期間に制限を設ける点についての言及があり、役員に交代が生じた場合でも本学会の運営方針等が継承できる仕組み作り等が必要であり、次々期役員選挙の実施に向け申し送りをしたい旨が説明された。内野監事より、オンライン投票システム構築のための初期投資を惜しまず、将来を見据え十分な選挙運営が行えるシステムを構築すべきであるという意見が述べられ、全会一致で承認された。

(6) 平成23年度公開シンポジウム開催

林理事より、資料に基づき、平成23年度の公開シンポジウムの開催計画の説明があった。従前、当該シンポジウムを開催していない地域を選定し、開催地（実行委員長：所属施設）ならびにシンポジウムテーマは、次の通りとした。山形（白石 正：山形大学医学部附属病院）、山梨（小口 敏夫：山梨大学医学部附属病院）、三重（奥田 真弘：三重大学医学部附属病院）、佐賀（藤戸 博：佐賀大学医学部附属病院）の4カ所。シンポジウムテーマについては、①医師と薬剤師が作る薬物療法プロトコールと薬剤師の役割、②プライマリーケアにおける薬剤師の役割、③在宅医療を支える医療薬学、④ファーマシューティカルケアのコスト・ベネフィット解析の4種類を企画し、各地の実行委員長に選択してもらうこととした。協議した結果、全会一致で承認された。

(7) 第23回年会開催候補地

議長より、資料に基づき、第23回年会（平成25年度）の開催候補地の選定に係る説明があった。近年、実施されていない東北地区での開催を検討し、交通の便及び一定規模の参加者の収容能力を鑑み、開催候補地として宮城県・仙台市、年会長として眞野 成康氏（東北大学病院）とする提議があった。協議した結果、全会一致で承認された。

(8) シンボルマークの選定

奥田理事より、資料に基づき、本学会のシンボルマークについて、昨年12月末日までの受付期間中に応募が92種類あり、広報委員会（平成23年3月2日開催）において、医療や薬のイメージに結びつき且つホームページ・学会誌・パンフレット等への汎用性の高いデザインを採択候補作品とし選考した結果、人と薬のつながりがイメージできる作品として、応募作品の中から1点を選考した経緯と、今後、当該デザインに手を加え、日本医療薬学会又はJSPHCSがイメージできるものにモディファイした上で、次回の理事会に諮りたい旨の説明があった。協議した結果、奥田理事の意見の通りとすることとなった。

(9) 会費未納者への対応

議長より、資料に基づき、平成20年度学会費の未納者1名より、過去に遡って学会費の納入を希望する主旨の嘆願書が提出され、その取り扱いに係る説明があった。従前より、前年度分の学会費の納入については認めておらず、学会費を遡る納入に関する嘆願書等が提出された場合に当理事会において個別判断をする対応をしてきたところであり、今回の提出者の取り扱いについて協議した。その結果、従前からの取り扱いに倣い、特別事務手数料を徴収するという条件付で前年度学会費の納入を認めることが、満場一致で承認された。

(10) 年会講演要旨集の公開

議長より、資料に基づき、岐阜大学機関リポジトリへの転載に係る説明があった。同大学学術情報部より申し出があった、本学会年会の講演要旨を、同大学機関リポジトリへの包括的な登録・公開の許諾依頼に対する取り扱いを協議した。協議した結果、当該依頼に応じ許諾することが満場一致で承認された。

(11) その他

1) 堀内理事より、本学会として独立した事務局体制を構築する検討委員会の設置について提議があった。本学会として、法人格の取得、また近年の会員数の増加に鑑み、事務委託によらない独自の事務局体制を構築する検討委員会の設置ならびに具体的な検討を進めるべきという意見があり。協議した結果、議長、山田副会頭、奥田理事、内野監事で構成する事務局体制に係る検討委員会を設置することとなった。

2) 議長より、利益相反マネージメントを議論する委員会の設置について、提議された。協議した結果、鈴木副会頭、谷川原理事、山本（康）理事で委員会を構成することが承認された。

3. 報告事項

(1) 平成23・24年度代議員選挙結果

協議事項（4）平成23・24年度推薦代議員候補者の選出で報告済。

(2) 平成 23 年度会費の納入状況

大石理事より、資料に基づき、平成 23 年度会費の納入状況の報告があった。従前の会員への郵送による会費の請求・納入用紙の送付に代え、学会誌に会費の請求・納付用紙を綴じ込み、続いて E-メール配信による請求案内に続き、更なる未納者への郵送により会費の請求・納入用紙を送付した。3 月 5 日時点で 6,293 名から会費納入であり、前年度の納入状況を下回っているが、その一方で、会費の請求方法の変更によるコストダウンの効果があつた状況が報告された。次年度会費の請求・徴収については、さらに効率良く、効果的な方法を検討する意向が説明された。

(3) 第 20 回年会報告

北田第 20 回年会長の代理で出席した中村千葉大学医学部附属病院薬剤部副薬剤部長より、資料に基づき、当該年会の実施報告があった。一般参加者が 6,635 名（正会員：4,162 名、非正会員：2,049 名、学生：424 名）他で、年会長講演、学術貢献賞受賞者講演、奨励賞受賞者講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、教育セミナー、一般演題、共催セミナー、共催ワークショップなどの事業及び成果報告があった。

(4) 第 21 回年会準備状況報告

議長より、平井第 21 回年会長に代わり、資料に基づき、第 21 回年会準備状況の報告があった。2 月中旬の受付締切日までにシンポジウムに応募があつた中から選考した結果、現時点で 29 セッションを採択する予定であることが報告された。

(5) 委員会報告

1) 企画・シンポジウム委員会

協議事項（6）平成 23 年度公開シンポジウム開催で報告済。

2) がん専門薬剤師研修委員会

谷川原理事より、本年 1 月 13 日に開催された平成 23 年度第 1 回がん専門薬剤師研修委員会の報告として、本学会が認定するがんに関する講習会のうち、他の学術団体が主催する講習会に係る申請書式、認定対象の候補となる講習会・セミナー等に係る協議と、がん専門薬剤師養成研修ガイドラインの策定を検討することが報告された。

3) 代議員選挙管理委員会

協議事項（4）平成 23・24 年度推薦代議員候補者の選出で報告済。

4) 出版委員会

鈴木副会頭より、望月委員長に代わり、本年 2 月 16 日に開催された第 1 回出版委員会の議事録を基に説明があつた。出版委員会より前回理事会に提議し、同委員会で再検討することとなった医療薬学用語集（以下、用語集という）の作成について、同委員会で再検討した結果、改めて用語集の必要性を確認したこと、また、用語集の作成には同委員会、編集委員会及び認定薬剤師制度委員会の委員等で構成する医療薬学用語委員会ならびにそのワーキンググループを編成することが提案された。議長より、当該用語集の出版の件について、当初より関わっていた北田理事に経緯の確認や意見を聞いた上で、改めて検討することとなった。

5) 選挙制度委員会

協議事項(4) 平成23・24年度推薦代議員候補者の選出で報告済。

6) 広報委員会

奥田理事より、本年3月2日に開催された第1回広報委員会の報告があった。本学会ホームページ(以下、HPという)の改訂作業として、新たなHPに掲載するコンテンツの構成及び会報に替わるコンテンツの整備等に係る情報の整理を4月中旬頃までに行うこと。また、それを受けて、HPの作成に2ヵ月、確認に1ヵ月の期間を要することが報告された。

7) 医療薬学教育委員会

議長より、平井理事に代わり、昨年12月27日に開催された薬学教育委員会の議事録を基に、同委員会の議事が報告された。

8) 後援依頼

議長より、本学会の後援依頼があった「第11回オンコロジーセミナー」(主催:NPO法人がん医療研修機構)について、前年度も同セミナーの後援の承諾をしていることより、承諾回答をしたことが報告された。

9) その他

樋口委員長より、学術貢献賞及び奨励賞に係る次のような報告があった。①平成23年度の募集への積極的な応募の働きかけの依頼があった、②奨励賞・学術貢献賞選考委員会の名称を、表彰内容の重みや新たな表彰制度の導入に対応できるように改称し、学術貢献賞・奨励賞等選考委員会の変更すること、③選考の公平、中立性を保つ観点より、選考に関わる委員の再任制限の導入や委員候補者として一定数をプールし、応募者と関わりのない者を委員に指名・委嘱するという案を、次回の理事会に提議したいという報告があった。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は17時20分に閉会を宣言し、解散した。